



The
85th
Anniversary
since 1938

T

Guide 2024

TOHO Junior High School
TOHO Senior High School

Piano
Vocal
Wind, String and Percussion Instruments
Composition

O

H

#東邦だからできること

O

東邦音楽大学附属東邦中学校
東邦音楽大学附属東邦高等学校

学校法人 三室戸学園



学校法人三室戸学園のはじまりは1938年——。

以来、「音楽を幹にした豊かな人間性の育み」を目的とする一貫教育を通じて、音楽の最前線で活躍し、社会に貢献する人材の育成に取り組み、数多の有能な人材を輩出してきました。

本学園が推進する学びの中軸は「音楽人」としての資質を磨く場所。ただそれは音楽のみを究めることを指しているではありません。

音楽教育の本質を大切にしながら、社会貢献はもちろん、世界の人々と堂々とわたりあえるバランス感覚のとれた人間への成長を促すこと。これが本学園の使命だと考えます。

#東邦だからできること

One to One Quality

CONTENTS

イントロダクション	2	演奏活動	14
東邦中学校・東邦高等学校での学び	4	社会貢献活動	15
東邦中学校・東邦高等学校の教育システム	6	キャンパスガイド	16
卒業生の活躍	9	卒業生インタビュー	20
中学の3つの専門	10	沿革/アクセス	22
高校の4つの専攻	12	ごあいさつ	23

T
O
H
O



ここでしか 得られない体験

One to One 教育へのこだわり

東邦の学びの中核である「One to One」。

教員は生徒の個性を尊重し成長を見守り、生徒は教員を信頼する。

こうした当たり前とも思える関係性を重視する校風が、東邦には根付いています。

少人数制による学びのもと、音楽力の向上はもちろん、

社会で活躍するためのスキルやマナーを身につけ、個の成長を促します。



■ 三室学園の建学の精神

音楽芸術研鑽の一貫教育を通じ、情操豊かな人格形成を目途とする

■ 教育の基本方針

一貫教育の実践

本学園の短期大学・大学・大学院進学を視野に入れた一貫教育体制で、力強い人間力を養う実践的な教育を行っています。

少人数制による教育

少人数制による One to One のきめ細かい教育を実践。大学や短期大学の教授陣による個人レッスンも充実しています。

グローバル化への対応

外国人講師による英会話と、高校3年次必修のドイツ語で、ますます進む国際化に通用するコミュニケーション力を磨きます。

地域社会との交流

年間を通じてボランティアコンサートを行っているほか、募金活動や音楽祭などの地域活動にも積極的に参加しています。





東邦中学校・東邦高等学校の教育システム

Education

すべての授業で One to One の少人数制を採用し、生徒一人ひとりの学ぶ意欲や思考力・表現力を育み、個々の可能性を広げる指導を行っています。



音楽方面で活躍するための基盤固め

本学園の大学・短期大学への進学を見据えた技術的・精神的な成長を促す点が特徴です。たとえば、専攻の実技レッスンでは基盤固めをしっかり行い、その先の発展的な学びへスムーズに移行できるよう導きます。



週6日制のカリキュラム

これまでに身につけた基礎学力の向上を目指し、さらなる知識の定着・充実を目標としています。週6日制のカリキュラムにより、音楽の個人レッスンや実技練習も十分に行うことができ、一般教養と専門分野を効率的に学べます。



個・技を伸ばすカリキュラム

一人ひとりの未来の幅広い可能性に対応できるよう、普通教科と学園独自の音楽専門教科をバランス良く習得できるカリキュラムを設定しています。外国人講師による英語教育に注力するほか、高校3年次からはドイツ語も学習します。

■ カリキュラム

中学カリキュラム

2024年度入学生用(予定)

教科	1年	2年	3年	
普通教科等	国語	140	140	105
	社会	105	105	105
	数学	140	105	140
	理科	105	140	140
	音楽	35	35	35
	美術	35	35	35
	保健体育	105	105	105
	技術家庭	70	70	35
	英語	140	140	140
	道徳	35	35	35
	特別活動	35	35	35
	総合的な学習の時間	50	70 (ソルフェージュ)	70 (ソルフェージュ)
	小計	995	1015	980
	音楽科目	楽典	35	35
ソルフェージュ		105	35	35
合唱		35	35	35
歴史と音楽		35	35	35
合奏・重奏		(35)	(35)	(35)
実技レッスン (独唱・独奏)		35	35	35
小計		245 (280)	175 (210)	175 (210)
合計	1240 (1275)	1190 (1225)	1155 (1190)	

※数字は年間の授業時数です。1時数とは50分の授業1回のことを指します。
※1年生の芸術の時間不足は、専門科目などで充当。

の項目について

- 音楽科目は、「合奏・重奏」以外は全員必修です。
- 「合奏・重奏」は、管楽器・弦楽器・打楽器を主に学んでいる生徒を対象としています。()内の時数は、それに該当する生徒の時数です。
- 「実技レッスン(独唱・独奏)」は各学びごとの個人レッスンです。時間割以外に位置づきますが、生徒は全員必修です。

高校カリキュラム

2024年度入学生用(予定)

教科	科目	1年	2年	3年		
普通教科等	国語	現代の国語	2			
		言語文化	2			
		文学国語		3	3	
	地理	地理総合	2			
	歴史	歴史総合			2	
	公民	公共		2		
	数学	数学I	2	2		
	理科	科学と人間生活	2			
	生物基礎	生物基礎			2	
	保健体育	体育	2	3	2	
保健	保健	1	1			
外国語	英語コミュニケーションI	3				
	英語コミュニケーションII		3	3		
	論理・表現I	1	1	1		
	ドイツ語			2		
家庭情報	家庭基礎		2			
情報I	情報I	2				
小計		19	17	15		
専門教科	音楽	音楽理論	2	2	2	
		音楽史	1	1	1	
		演奏研究			1	
		ソルフェージュ	3	3	3	
		声楽	独唱(主専攻)*1	2	2	2
			声楽(副専攻)*2	1	1	1
			様々な形態のアンサンブル*3	2	2	2
		器楽	独奏(主専攻)*4	2	2	2
			ピアノ(副専攻)*5	1	1	1
			管弦打(副専攻)*6	1	1	1
			様々な形態のアンサンブル*7	1	1	1
		作曲*8	2	2	2	
		鑑賞研究		1		
小計		11~13	12~14	12~14		
総合的な探究の時間		1	1	1		
特別活動(単位時間数)		(35)	(35)	(35)		
合計		31~33	30~32	28~30		

※数字は1週間における単位時間(=授業の回数)を示しています。

- *1 声楽専攻者 必修
- *2 ピアノ・管・弦・打・作曲専攻者 必修
- *3 音楽科生徒全員 必修
- *4 ピアノ・管・弦・打専攻者 必修
- *5 声楽・管・弦・打・作曲専攻者 必修
- *6 ピアノ・声楽・作曲専攻者 選択履修
- *7 管・弦・打専攻者 必修
- *8 作曲専攻者 必修

■ 音楽を主とした学びの特色

基礎学力の向上 (普通教科の修得)

高度な音楽知識を理解習得するためには、しっかりと基礎学力が欠かせません。本校では音楽教科とともに普通教科も大切に、基礎学力の充実を図り、知性を育みながら音楽力を高める教育を実践しています。

音楽の基礎力の向上 (ソルフェージュ)

ソルフェージュ (聴音 新曲視唱) は音楽力の基礎を養う大切な学びです。ゼロから始める未経験の生徒でもきちんと習得し、レベルアップしていけるよう、グレード別にクラスを分けて少人数での授業を展開しています。

グローバル化への対応 (語学力の強化)

外国人講師による英語教育に注力するほか、東邦音楽大学で必修となるウィーン短期留学に向けたドイツ語も高校3年次に学習します。

大学教授陣による個人レッスン

東邦音楽大学 短期大学の教授陣による個人レッスンを実施。各生徒の目標や能力に合わせた専門的かつ綿密な指導で、確かな技術を身につけます。また、主専攻の実技指導のほか、希望者には副専攻管弦打楽器のレッスンも行います。

実践的な授業 (弦楽合奏・ウインドオーケストラ)

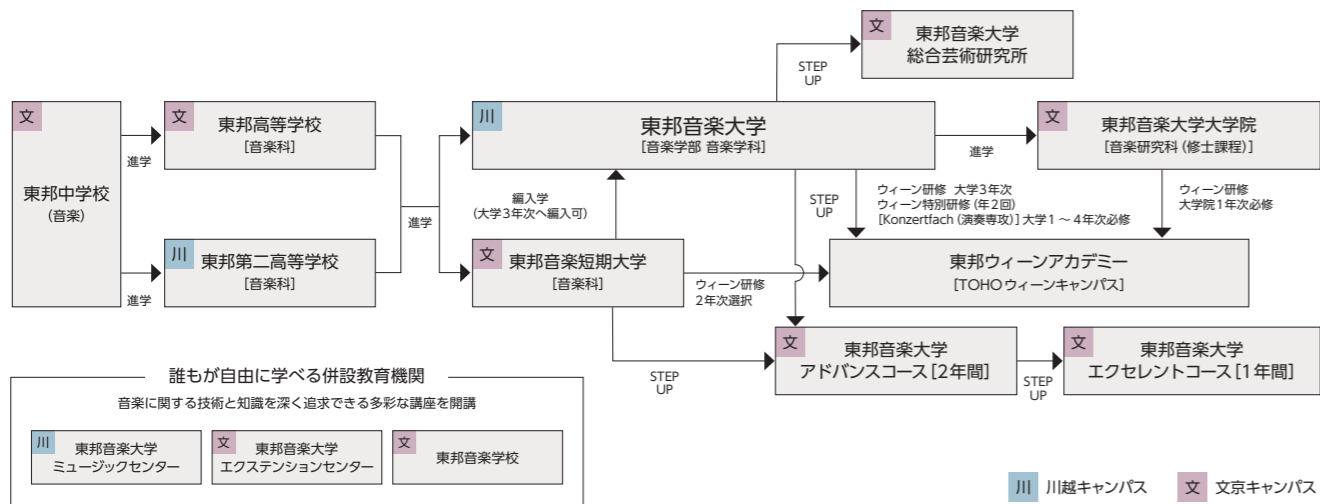
東邦中学校と東邦高等学校の合同編成で行う実践的な授業です。弦楽合奏は宮野陽子先生、ウインドオーケストラは小林恵子先生を中心とする指導陣のもとで練習に励み、演奏技術はもとより連帯感・責任感・協調性まで、音楽演奏に不可欠な素養を磨きます。

講師陣の
プロフィール



■ 三室戸学園の一貫教育システム

三室戸学園では、音楽を通じて豊かな感性を養うことを目的として、中学・高校から短期大学 大学・大学院進学まで含む一貫教育を実践。すべての授業で One to One の少人数制を採用し、生徒一人ひとりの学ぶ意欲や思考力・表現力を育み、個々の可能性を広げる指導を行っています。



■ 進路・進学

中学校から大学院までの一貫教育を実践している本学園では、高校生の多くが東邦音楽大学または東邦音楽短期大学へ進学します。進路については一人ひとりの資質と将来性を見極め、細やかなアドバイスを行っています。

■ コンクール受賞・入賞実績

本校の生徒は各種音楽コンクールにおいて多数の受賞・入賞実績を築いています。参加者同士が競い、高め合うコンクールへの挑戦はステップアップの大きなチャンスとなるため、今後も全面的にサポートしていきます。

【将来の進路】

● 音楽家としてステージに立つ・創作する仕事

ピアニスト・器楽演奏家、声楽家・オペラ歌手、作曲家・編曲家、シンガーソングライター、自衛隊音楽隊員、消防音楽隊員など

● 音楽で人を助ける・人の成長をサポートする仕事

中学校教諭 (音楽)、高等学校教諭 (音楽)、音楽療法士、音楽教室講師、吹奏楽指導員など
※東邦音楽大学では東京未来大学通信教育課程との連携により、小学校教諭普通免許状および幼稚園教諭普通免許状を取得する制度もあります。

● 音楽を通して身につけた知識・技術を生かす仕事

声優・俳優、音楽事務所、オーケストラ事務局、レコード会社、福祉系施設 公的機関、一般企業など

● 進学

東邦音楽大学大学院、東邦音楽大学アドバンスコース、東邦音楽大学総合芸術研究所、海外留学など

◎第5回 足立区ギャラクシティ音楽コンクール [中学生部門] 1位

◎第2回 ドルチェムジーカ コンクール [声楽部門 中学の部] 1位

◎第23回 大阪国際音楽コンクール [チェロ・中学生の部] エトワール賞

◎第8回 下田国際音楽コンクール [ヤングアーティスト部門] 金賞

◎第32回 日本クラシック音楽コンクール [チェロ部門 中学の部] 1位なし2位

◎第5回 足立区ギャラクシティ音楽コンクール [高校生部門] 3位

◎第5回 K室内楽コンクール [動画審査部門 大学・一般の部] 3位

◎中学・高校生のための 管弦打楽器ソロ・コンテスト 金賞/特別賞 川越市長賞

卒業生の活躍



©Hirokazu Takayama

「音楽に迷ったときこそ、東邦で学んで良かったと思う」

ユネスコ平和芸術家/東邦音楽大学・東邦音楽短期大学特任教授
城之内 ミサ

ミッシェル・ルグランに憧れて音楽を学び、短大在学中に初めてドラマの曲を書いて以来、映像音楽の作曲家、シンガーソングライター、指揮者、さらにはラジオのパーソナリティーやドラマの演者として、さまざまな仕事を経験してきました。世界遺産トーチランコンサートで各国のオーケストラと共演できたのも、現在、ユネスコ平和芸術家として活動の場を広げているのも、いつもそのときの自分にできる最大限の努力をし、精一杯の表現をしてきたからだと思います。でも、今でも音楽をする際は迷うし、自信があるとは言えません。東邦で学んで良かったと思うのはそんなときです。ご指導いただいた先生に「作曲は選択と決断の連続。自分を信じて良いと思ったものを貫きなさい」と教わったからこそ、ここまで続けてこられたのだと思います。

【Profile】 東邦音楽大学附属中学・高等学校 (ピアノ科)、東邦音楽短期大学 作曲楽理科で学ぶ。短大在学中からテレビドラマ、映画音楽の作・編曲を手掛けるようになり、これまでに携わった映像音楽や主題歌、CM音楽は多数。2006年、作曲家・指揮者としては日本で初めてUNESCOパリ本部より「ユネスコ平和芸術家」に任命される。その活動の一環として、「世界遺産トーチランコンサート」を国内外で開催している。



「クラシックにとどまらないピアノの世界を体系的に学べる魅力的な環境」

ピアニスト/東邦音楽大学講師
藤原 新治

私はピアニスト/ピアノ講師として活動していますが、今の仕事に必要な見識の多くを東邦中学校・東邦高等学校で身につけました。まるで親のように見守ってくださる先生方の存在はとても安心感があり、音楽を楽しむことを教わりながら、どこをどう歩けばプロになれるのかという道筋を示していただいたように思います。クラシックにとどまらないピアノの広大な世界を体系的に学べる環境は本当に魅力的で、放課後もレッスン室でピアノにかじりつき、図書館に所蔵された楽譜や資料を読みあさる、そんな素晴らしい日々でした。現在はピアノ講師として東邦音楽大学にかかわらせていただいていますので、自分の経験を後進指導に生かし、日本の音楽文化の底上げに微力ながら貢献できるよう努めていきます。

【Profile】 東邦中学校・高等学校を卒業後、2010年から単身ハンガリーに渡り、ハンガリー国立リスト音楽院で学ぶ。ハンガリー政府国費留学生として6年の研鑽を積み、2016年に同学大学院を最優秀の成績で修了。数々の国際コンクールで入賞経験を持つ。現在は日本とハンガリー両国にまたがって活動を展開しており、気鋭のピアニストとして注目を集めている。



音楽の学びに欠かせない実践力を育むために

東邦音楽大学附属 東邦中学校・東邦高等学校
教頭 三柴 直子

音楽は、粘り強く段階を踏むことで才能が開く分野です。その成長を支えるのはしっかりした基礎で、音楽教育における中学・高校の時期は基礎作りの大切な時期にあたります。そこで教師に求められるのは、ソルフェージュや呼吸法といったベーシックを個々の特性に合う方法で指導し、鼓舞していくこと。さらに、自身の未知の声 (可能性) を知り、魅力に気づけるように導くことで、表現の要となる個性を引き出すのです。同時に、音楽に必要な理解力、分析力を養う一般教科の習得も欠かせません。本校が提供するバランスのとれた学びで、夢に向かってステップアップを目指しましょう。

中学

Junior High School

豊かな人間性と音楽性を育む3つの専門

充実した環境のもとで行われる一貫教育体制により、人生の早い時期から音楽専門教育に触れ、プロフェッショナルな技術とともに豊かな知性・感性・人間性を育みます。

ピアノ

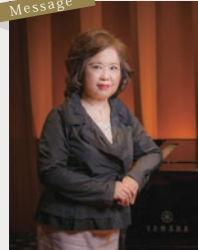
Piano

生徒に応じたきめ細かなレッスンで
個々の資質を引き出す

大学・大学院までの長いスパンで成長することを見据え、中学生の時期に身につけなければならない基礎的な技術・知識をしっかりと習得します。この心と身体の大切な成長期に良い積み重ねのできる練習を自らできるように導きます。そして生徒の資質や学習意欲に応じて、課題やアドバイス(時には音楽以外のことも)を与えて、きめ細かく個々の資質を最大限に引き出します。



Message



秦 はるひ
・東邦音楽大学特任教授

力が伸びる大事な時期
良いところを引き出していく

中学生はどんどん力が伸びていく、とても大事な時期です。専門的に音楽教育をしている中学校は全国でも数少なく、ここでは専門のレッスン、音楽関連科目が授業の中にあり、また他の楽器の友達と交流してアンサンブルもできるなどという恵まれた環境で勉強することができます。皆さん光るものを自分の中に持っているの、私たちが少し背中を押して、良いところを引き出していけたらと思います。

管弦打楽器

Wind,String and Percussion Instruments

幅広い視野を得るために、
日々努力する習慣を身につける

基礎的な演奏テクニックの習得と、日々努力する習慣を身につけることに重点を置いています。豊かな表現力を育むために、音楽全般やその他の教科にも力をそそぎ、幅広い視野を持てるよう促します。

【専攻楽器】

フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、サクソフォン、ホルン、トランペット、トロンボーン、チューバ、ユーフォニアム、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、打楽器

Message



泉 真由
・東邦音楽大学講師

大切なのは何に対しても
自分の考えを持つこと

本校は音楽を専門的に学ぶ学校ですが、一つのことを究めること、アンサンブルや合奏を通して他人と意見交換をし、多様性を受け入れ認めていく、人間力を磨く場所でもあります。大切なのは、何に対しても「自分の考えを持つこと」。自分が何をしたいのか、どう演奏したいのか、何を感じるのか。中学校での学びを通じて、実技のみならず自分を探していくお手伝いができればと思います。この魅力ある環境で、共に学んでいきましょう！



声楽

Vocal

心身の発達にあわせ、
歌うための基礎をつくる

心身の発達段階にある中学生の特性に合わせて、身体が楽器であることを知り、歌うための基礎をつくることから始めます。柔軟な身体から発せられる声こそが無理のない歌唱につながるの、正しい立ち方で発声練習が大切。練習曲(コンコーネなど)とともに歌曲などにもチャレンジしながら、楽しく取り組めるように指導します。



Message



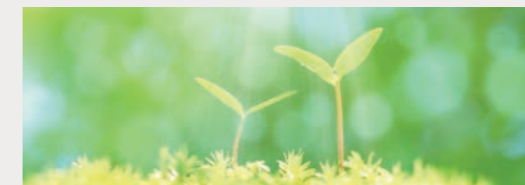
三柴 直子
・東邦中学校・高等学校
教頭

個々の理解度を把握しながら
丁寧に指導

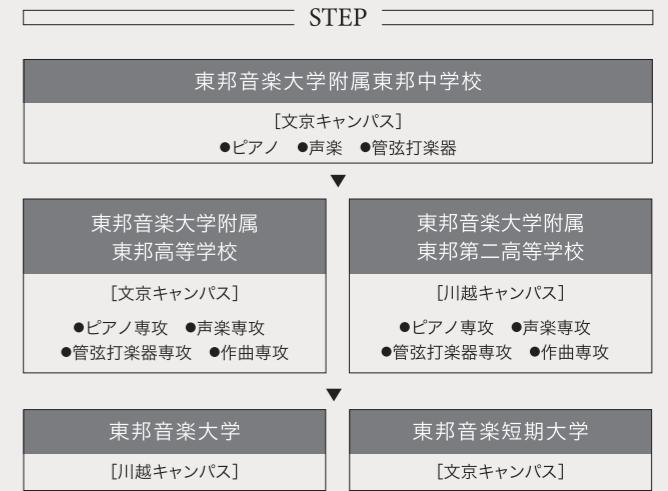
音楽のように数字で割り切れない学びは、人格形成において非常に意義深いものです。音楽に内包された喜怒哀楽に触れ、それを自分の表現として他者に聴いてもらう。そこには歌い奏でる心、伝える心と、感謝の心がなくてはなりませんから、それだけでも貴重な経験でしょう。そのためにも個々の理解度を把握しながら丁寧に指導することを心がけています。基礎力や表現力など、バランス良く習得できる本校の学びで、成長を実感してください。

6年をかけて促す、技術的精神的な成長

中学・高校においては、6年というトータルのスパンで技術的・精神的な成長を促す点が特徴です。たとえば、合唱や合奏の授業では学年や中高の垣根を越えた合同チームでアンサンブルをつくる機会もあり、全体のレベルアップと同時に、先輩・後輩が互いに刺激し合うことで積極的に音楽に取り組む姿勢も磨かれます。定期演奏会をはじめ学園全体で行うイベントも多く、そこで芽生える生徒同士の絆も本校ならではのものです。



STEP



高校

High School

専門性と確かな技術を育む4つの専攻

ピアノ専攻、声楽専攻、管弦打楽器専攻、作曲専攻を開設。

バランスの良い知性・感性とともに、個々の可能性を広げる確かな基礎力と演奏技術を育みます。

ピアノ専攻

Piano

身につけなければならない技術・知識を徹底的に指導します

大学・大学院までの長いスパンで成長することを見据え、そのために高校の3年間で身につけなければならない技術・知識を徹底的に指導します。演奏の土台となるテクニックは、独自のテキストを用いて確実に向上させます。生徒の特性や学習経験を踏まえたきめ細かなレッスンによって、個々の資質を最大限に引き出します。

Message



中島 剛

・東邦音楽大学専任講師

ピアノを通じて表現する喜びと感動を伝えていきたい

マンツーマンのレッスンでは、一人一人の目的やレベルにあったレッスンを心がけたいと思います。ピアノを通して音楽を表現する喜び、感動を少しでも伝えていきたいと考えます。可能性は無限大！ジャンルに関係なく、生の演奏会や美術館へ足を運ぶなど、素晴らしいものを吸収して身体全体で感じて下さい。高校生の若い皆さんには、自分に限界を作らず何でもチャレンジし、大いに悩み、成長していただきたいです。



声楽専攻

Vocal

個々の身体の発達に合わせた発声練習を実施

音楽の中で唯一「言葉」を伴う声楽は、母音と子音の正しい発語を意識することで表現の骨格が定まり、安定した歌唱が可能になります。個々の身体の発達に合わせ、まずは呼吸(呼吸)・支え・響きを重視した発声練習を実施。さらに練習曲(コンコーネなど)で声づくりをし、作曲家の作品を通して、音楽史をふまえながら技術を磨きます。

Message



外山 愛

・東邦音楽短期大学専任講師

豊かな音楽性と技術の向上を目指す

声楽は身体が楽器であり、心・技・体の芸術です。私達は3つの要素のバズル合わせに邁進し、時には迷いながら唯一無二の声作りを目指す、いわば声の職人技を目指すようなものでもあります。レッスンでは基礎をしっかりと身につけながら土台を作り、豊かな音楽性と技術の向上を目指します。それぞれの個性を伸ばやかに生かせるような丁寧できめ細かい指導を心がけています。この素晴らしい歌の世界と一緒に楽しく学びましょう。



管弦打楽器専攻

Wind, String and Percussion Instruments

実践的なアンサンブルの中でコミュニケーションを学ぶ

基本奏法を習得し、実践的なアンサンブルの中でコミュニケーションの大切さを学びます。また、豊かな表現力を育むために、音楽全般やその他の教科にも興味を促し、幅広い視野を養う指導を行います。

【専攻楽器】

フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、サクソフォン、ホルン、トランペット、トロンボーン、チューバ、ユーフォニアム、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、ハープ、打楽器

Message



藤森 亮一

・東邦音楽大学特任教授
・NHK交響楽団首席チェロ奏者

音楽と生活に関わることをすべてを絶えず考える

楽器を演奏するためには、さまざまなことを学ぶ必要があります。音楽と普段の生活にかかわる色々なことを、絶えず考えながら勉強していきましょう。レッスンでは、チェロを通して音楽の楽しさ深さを体験させることを指針としています。チェロという楽器を出来る限り簡単なものと理解させ、最短をめざし技術を習得し、演奏する喜びを知ってもらいたいと思います。



作曲専攻

Composition

さまざまな知識と技術を一人ひとりの資質に応じて指導

和声、コード、対位法、カウンターメロディ、アレンジ、音源制作など、作曲にまつわるさまざまな知識と技術を一人ひとりの資質に応じて指導。また、作曲に最も必要な素養である「意思」を重んじ、伝えたい、書きたいと強く思う気持ちを引き出します。さらに、その意思を「音」として表現するためのあらゆる技法を学びます。

Message



荻久保 和明

・東邦音楽大学特任教授

音楽に対する意思を強く持てる学生に

作曲・音源制作という孤独な作業は現代における貴重な職人芸であり、演奏にかかわるコミュニケーション能力は社会生活において有用です。とりわけ作曲に関しては「何を書くか書きたいか」が重要ですから、自分の音楽に対する意志を強く持てる生徒を育てたいと思っています。ハーモニー、コード進行、対位法、オーケストレーションアレンジ、パソコンによる音源制作まで、そのために必要な知識・技術はすべて教えます。



演奏活動

Performance

演奏会は、日頃の学びの成果を発表し、生徒自身が成長を実感する大切な機会。一人ひとりの生徒が活躍できるのはもちろん、仲間と協力しあい演奏会を作り上げていくよこごとと達成感は、生徒自身の成長に繋がります。

弦楽合奏

弦楽合奏は中学生と高校生のメンバーからなり、日々練習に励んでいます。東邦音楽大学グランツァールや公共ホールでの定期研究発表演奏会は、日頃の成果を披露する大きなステージ。メンバーみんなが切磋琢磨し合い創り上げるステージは、感動もひとしおです。



世界遺産トーチランコンサートへの参加

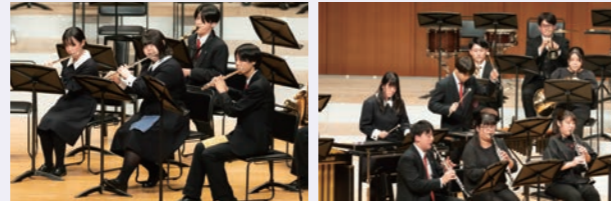
東邦音楽大学特任教授 城之内ミサ先生が主催するユネスコ・パリ本部公式パートナーシップ事業「ユネスコ平和芸術家・城之内ミサ 世界遺産トーチランコンサート」は、城之内先生の音楽作品を通して、国内外の素晴らしい奏者とともに「世界の平和」と「世界遺産保護」、そして「心の平和」への願いを伝えていくことを目的としたコンサートで、長年にわたり世界各国で開催されています。本校の生徒たちは、東京国際空港 国際線旅客ターミナル(羽田空港第3ターミナル)で行われる「世界遺産トーチランコンサート」に合唱団として参加しており、城之内先生の指揮のもと、感動的な演奏を披露しています。



ウインドオーケストラ

東邦中学校と東邦高等学校のウインドオーケストラは、小林恵子先生指揮のもと日々練習に励んでいます。中学生、高校生からなるメンバーは、先輩後輩の枠を超えひとつにまとまった演奏をお届けしています。経験豊富な先生のタクトに合わせて定期研究発表演奏会のステージで演奏しています。

指揮:小林恵子(東邦音楽大学特任准教授)



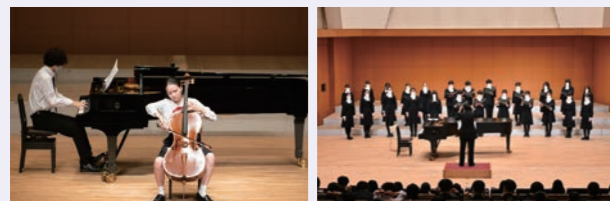
クラシックコンサート

東邦中学校・東邦高等学校の生徒と教員によるクラシックコンサート、「東京さくらトラム(都電荒川線)沿線の文化と景観を後世に残す」を近年、北とびあ・つつじホールにて開催しています。本公演は、世界遺産トーチランコンサートの一環として、第8代ユネスコ事務局長、松浦晃一郎先生(東邦音楽大学客員教授)が理事長を務めるNPOユネスコパートナーシップ世界遺産トーチランコンサート協会のご支援とご協力をいただき、東京さくらトラムの沿線等の四季折々の写真や映像により、景観と文化、そして人々の営みをクラシック音楽を通して地域の方々にもお伝えする地域貢献のためのコンサートです。ユネスコ平和芸術家・城之内ミサ先生(東邦音楽大学特任教授)の企画立案により、年2回実施しています。



定期研究発表演奏会

川越キャンパスにある音楽ホール「東邦音楽大学グランツァール」では、毎年数回、ソロの演奏、合唱や弦楽合奏、ウインドオーケストラといったさまざまなかたちの演奏会があります。生徒たちは練習と本番での演奏を通じて、みんなで音楽を創り上げていく楽しさや人前で演奏する喜び、達成感を覚えます。また、定期研究発表演奏会では東邦音楽大学・短期大学生による演奏を「聴いて学ぶ」機会もあります。



社会貢献活動

Community Service

大塚警察署や小石川消防署より依頼を受けて演奏したり、東京都立大塚病院や高齢者福祉施設、地域の保育園を訪問したりと、音楽を通じた地域社会との交流を積極的に図っています。子どもから高齢の方までが少しでも元気になり、音楽を楽しんでいただけるよう、心を込めて演奏しています。



TOHO LIFE

School life

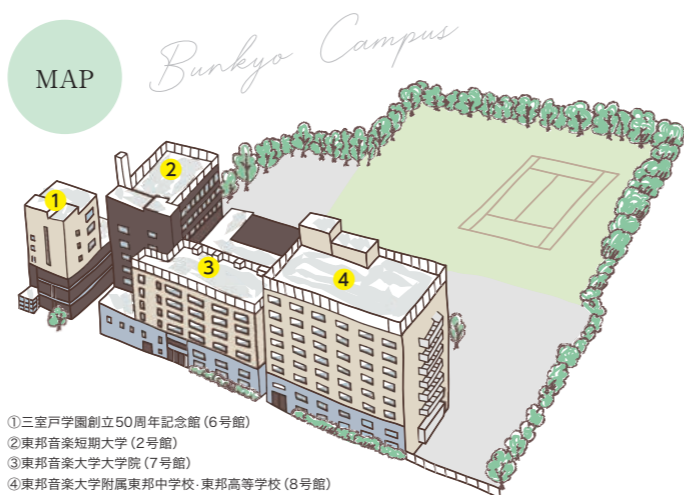
短期大学、大学院も併設するキャンパスは、音楽を志す生徒に多くの刺激をもたらしてくれます。仲間とともに演奏し、楽しみながら、充実した毎を送る素晴らしい環境がここにはあります。



大学院や短期大学も併設する アカデミックかつアットホームな環境

東京都文京区にある都市型キャンパス。都心にありながらも落ち着いたキャンパスは、音楽に没頭できる学びに適した空間となっています。首都圏のコンサートホールなどへのアクセスも良好です。

アットホームな校風と
充実した施設で
のびのびと音楽を学べます！



- ①三室戸学園創立50周年記念館(6号館)
- ②東邦音楽短期大学(2号館)
- ③東邦音楽大学大学院(7号館)
- ④東邦音楽大学附属東邦中学校・東邦高等学校(8号館)

中学生・高校生の1日

8:30	登校	ホームルーム前には、個人練習室などで自由に練習することもできます。
8:40	午前の授業	国語、数学などの教科はもちろん、音楽理論を学ぶ「楽典」、ピアノの音を五線譜に書き取る「聴音」など、音楽の専門的な授業もあります。高校3年生では、ドイツ語も学習します。
12:30	昼休み	昼休み。学生食堂では、栄養バランスのとれた美味しいランチが用意されています。
13:10	午後の授業	午後の授業は通常の授業に加えて、曜日や専攻によっては合奏の授業などがあります。
14:00	HR 終礼	5時間授業の日は14:00に授業が終了、6時間授業の日は15:00に終了します。
15:00	放課後	実技レッスン、合奏、個人練習など、時間の使い方はその日によって様々。次の本番などの目標にむけてひたすら練習に打ち込みます。
17:00	帰宅	次の日の予習をしたり、次のレッスンのための譜読みをしたりすることも。体調を整えることもとても大切なことですね。

大好きな音楽に
囲まれて、
充実した毎日を
送っています。



大学生もいる環境は刺激もたくさん！
たくさんの学びと発見があります！



年間行事

- 4 入学式/始業式
クラシックコンサート
オリエンテーション
健康診断/避難訓練
- 5 1学期中間試験
ボランティアコンサート
修学旅行(高校3年)
- 6 合唱コンクール
- 7 1学期学期末試験
前期実技試験
定期研究発表演奏会(ソクの部)
終業式/夏休み
- 8 夏休み/レッスン補講期間
- 9 始業式/防災避難訓練
ボランティアコンサート
クラシックコンサート/修学旅行(中学3年)
- 10 生徒総会/2学期中間試験
東邦ミュージック・フェスティバル
世界遺産トーチランコンサート
- 11 クラスコンサート(1・2年)
定期研究発表演奏会(合唱の部)
定期研究発表演奏会(ウインドオーケストラの部)
ヤマハ工場見学(中学2年)
- 12 2学期学期末試験
後期実技試験(3年)
定期研究発表演奏会
(オーケストラの部)
クリスマスコンサート/終業式
冬休み
- 1 冬休み/始業式
- 2 学科学年未試験
3年生を送る会
卒業演奏会
- 3 後期実技試験(1・2年)
卒業式
謝恩会/修了式
春休み

※例年の予定です。

SCHOOL UNIFORM

附属3校共通の制服は、演奏会にも着用できるフォーマルなデザインで、色は黒。冬服は男子がブレザー、女子がAラインのワンピーススタイル。セーターとベストは白・グレー・黒の3種類、コートはグレー・黒の2種類から選べます。



Message



鎌田 希海
・声楽専攻

切磋琢磨する学校生活は とても充実しています

音楽にあふれた場所で楽しい学校生活を送りたいと思い、私は、小学生の時に通っていたバレエ教室の先輩の後ろを追う形で入学しました。歌うこと、踊ることが大好きなので、将来は舞台の上に立つ仕事に就きたいと思っていますが、同じ夢を持っている友達もいて、切磋琢磨する学校生活はとても充実しています。先生方は皆さん優しくフレンドリーで、どの授業も興味深いですが、特に城之内ミサ先生の「世界遺産トーチランコンサート」に合唱団の一員として出演できることは、この学校の大きな魅力です。中でも、フランスで行われたユネスコの式典で歌わせていただいた貴重な経験は今でも心に残っており、これから夢に向かっていく上で心の支えとなってくれると思います。

CAMPUS MAP *Bunkyo*

文京キャンパス BUNKYO Campus

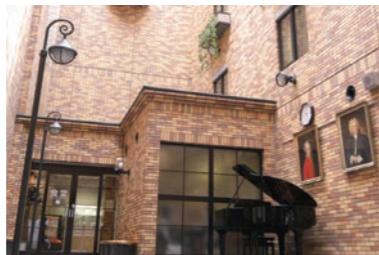
中学生から大学院生までが学ぶキャンパス。
音楽を志すもの同士、年齢にとられない交流の場がここにはあります。



シンボルでもある吹き抜けのエントランスは
多くの仲間の交流の場です

ホワイエ (2号館)

ヨーロッパスタイルの洗練された吹き抜けのエントランスロビー。文京キャンパスの顔でもあり、「ホワイエコンサート」と呼ばれる室内楽演奏会の舞台にもなります。



創立50周年記念館 (6号館)

地下1階・地上5階建ての記念館。1・2階を合わせて吹き抜けにし天井を高くしたコンサートホール。地下1階がロビーと控室。中3階が録音調整室。3階がP.M.E. 講義室。4階が記念史料室。5階が会議室。スタインウェイD型フルコンサートグランドピアノ1台設置。



外観

1階におしゃれなエントランスホールとレストラン、地下1階にレッスン室、地上2・3階に図書館、4階に教員研究室、5階から8階に講義室等を備えた校舎です。



レッスン室・個人練習室

冷暖房完備のレッスン室には、グランドピアノを2台設置しています。個人練習室にはグランドピアノまたはアップライトピアノが設置されています。



カレッジレストラン

メニューのバリエーション豊富な学生食堂。学生・生徒たちの憩いのスペースとしても活用されています。



文京図書館 [Music Commons]

2階は7500冊の音楽書に加え、歴史・美術・文学を中心とする一般書籍を含め25,000冊を所蔵。楽譜は20,000冊余りを所蔵し、自由に手にとって試聴することができます。3階はグループワークエリアや、集中して静かに学習するためのクワイエット・シートなど、さまざまな学習スタイルが可能な空間です。ポータブル式の視聴機を備え、6000タイトル以上のCDや500タイトル以上のDVDを全席で視聴できます。



大教室

合唱や、アンサンブルの練習等に使用する大教室。

川越キャンパス

Kawagoe Campus

埼玉県 川越キャンパスにある「東邦音楽大学グランツァール」は、数々の建築関連の賞を受賞した本格的な音楽ホール。本校に学ぶ生徒は、ここで開催される演奏会などで若い時期から大舞台を経験できます。



Interview

Messages from Graduates

学校法人三室戸学園の「音楽を幹にした豊かな人間性の育み」を目的とした一貫教育の扉は、中学から開いています。音楽を専門に学ぶ学校に中学、高校という段階で入学し、「自分の好きなこと」から「自分の進む道」を見つけた3人の卒業生に、学生時代を振り返っていただきました。「たくさん可能性」を見つけてきた東邦での充実した日々を垣間見ることができます。

城之内 ミサさん (中・高卒) × 中川 花奈さん (中・高卒) × 中野 寧音さん (高卒)

東邦音楽大学・短期大学特任教授・
ユネスコ平和芸術家

東邦音大パフォーマンス総合文化専攻
4年次在学中

東邦音大パフォーマンス総合文化専攻
3年次在学中

※2023取材当時

東邦の中学・高校には「可能性は無限だ」と教えてくれる環境がある

■ アットホームな雰囲気を迎えられて

城之内 私は小学生のころから、エンニオ・モリコーネやミッシェル・ルグランに憧れて「映画音楽を作る作曲家になる」と決めてました。中学からきちんとした環境でピアノや理論を勉強するために学校をいくつか調べていく中で、「東邦はのびのびとした雰囲気があり、可能性が広がると思う」と当時お世話になった先生が勧めてくださいました。当時からクラシックも、ポップスも学びたかったので、東邦を選びました。

中川 私も中学から東邦です。小学校4年生から始めたヴァイオリンをもうちょっと深く勉強してみたいと思って。見学してみたら学校の立地もよく、何よりアットホームな雰囲気が良かったのを覚えています。

城之内 雰囲気からして、ガチガチのエリートを育てるって感じではないのよね(笑)。

中川 先生方もすごく優しく。これなら安心して通えそうだと思います。

中野 僕は高校からです。小学校からやっていた打楽器を続けたいと思って学校を探していたところ、知人から東邦を教えてくださいました。受験を決めたのがギリギリで、ピアノなんて習い始めたのは中3になってからです。なので当初は不安でしかたありませんでした。音大の附属ということで、みんなレベルが高くてついていけないのではないかって。でも入ってみると少人数制もあって先生との距離も近く、じっくり学べるし、中学から上がった人たちも、音楽をやってる仲間っていう感覚ですぐに受け入れてくれました。

中川 学年や専攻を超えて仲がいいですよ。困った時に助けを求めやすいし、知りたいことがある時は、先輩を訪ねて教えてもらったり。先生も生徒の名前をきちんと覚えてくれて、すれ違う時には何かしら挨拶以外の会話があるんです。自分のことを見てくれているという安心感があります。

城之内 私の時は今とちょっと違うのかもしれないけれど、東邦の良さは変わらないと思います。私は教室のピアノでポップスをいっぱい弾いてましたね。当時のヒットチャート10曲、イントロからアウトロまで全部弾くのが私の係で、そこにみんなが乗ってきて歌いはじめるんです。全部耳でコピーして弾いてたから、それが私にとってソルフェージュになっていたと思います。専攻はピアノだったので、もちろんレッスンのための練習もするんですが、この経験のおかげで、あらゆるジャンルを作編曲しなければならぬ、映像音楽作曲家への道につながったと思います。

中川 いつもどこかで誰かの音楽を耳にするのが普通ですよ。私もヴァイオリン専攻なのにいつの間にかイタリア歌曲を覚えていたり、耳馴染みのない作曲家の管楽器の曲もメロディは頭に入っていたりして、自然と知識も広がっていきました。

中野 僕は打楽器専攻ですが、オーケストラやウインドオーケストラの繋がりもあり、さらに大学生が助演で入ったりするので、音楽仲間として交流できるのがすごくいいなと思いました。年上の先輩と共演したり話を聞いたりできるのは、音楽に対して未熟な時期に刺激をもらえましたし。言葉でも耳でも交流できるのは嬉しかったですね。

■ 本物を体験することでしか得られない学び

城之内 私は今、東邦の短大・大学で教える立場にいますが、附属中高出身の人たちは、リーダーシップがとれると思っています。中高の年代からクラスコンサートや定期演奏会、「世界遺産トーチランコンサート」などいろんな現場を踏んでいるので、多くの経験値を持っているんです。

中川 トーチランコンサートでの経験は大きいと思います。私は中学から高校まで6年間出演させてもらいましたが、羽田空港での毎月のコンサートをはじめ、京都や、外国への演奏旅行にも参加しました。中高の年齢でプロのミュージシャンの方々と一緒にステージに立つ経験はなかなかできることではないと思います。音楽だけでなく、礼儀やステージマナーも学べますし、なにより度胸もつき場に慣れることもできました。

中野 高校生の自分があのようなステージに立っていたんだと思うと、本当にありがたいですし、あの経験がなかったら打楽器をやっている自分が、こんなに歌が好きだということに気づいてなかったかもしれません。

城之内 みんな心から世界平和を祈って歌ってくれるんですよ。それにどんどんファンがついてきて、合唱を聴きたくて毎月足を運んでくださるお客様もいるくらいです。中野くんはソロパートを歌ってもらった機会がありました。共演者に「彼は打楽器専攻なんだよ」って言ったらみんなびっくりして、中川さんは中学1年生の頃に軽く動きながら歌うのを見て、一人抜群に動きがよかったです。ほめたことがありました。

中川 そのことがきっかけでダンスも習い始めて、私って踊ることも好きだったんだなと気づきました。

城之内 才能って、自分で気がつくものでもあり、人から見出してもらうものでもあります。そうした機会に、自分ができる最大のパフォーマンスをちゃんとやろうとするのが東邦の学生です。リハーサルも適当にはやらない。「お稽古から本番と思ってやる」という「附属魂」が身体に染み込んでいるんです。これは、東邦中学・高校の教頭先生である声楽家の三柴直子先生の教えだし、それをちゃんと現場で活かしてくれるので、プロのミュージシャンたちも「また一緒にやろうよ!」と声をかけてくれます。音楽も「心・技・体」で成り立っていますから、技術だけでなく心も育っていきます。

中川 先輩たちが自発的にやっているのを見るから、自然と自分もそう

いう振る舞いをしようという気持ちになれます。ずっと受け継がれた魂ですね。

■ 学校生活で見つけた、自分の進む道

城之内 二人は高校卒業後、私が教えている東邦音大のPACS(パフォーマンス総合芸術文化専攻)で学んでいる、優秀な学生でもあるんです。

中川 高校生での経験で、自分は「演奏する側よりも裏方として舞台を作る方が向いているのでは?」と思い始めました。もともと舞台を見るのも好きだったので、そういう方向に進みたいと思いPACSに進学しました。卒業後はミュージカルを制作する会社に就職が決まっています。

城之内 中川さんは、自分の出身校の「クラシックコンサート」というイベントの舞台監督してもらいました。それこそ一貫教育ならではの経験を積んでいます。PACSは、現場を提供して、実践できる人は実践で学んでいくスタイルですから。「体験して体で覚えてこい!」って。中川さんは非常に優秀なので、任せられます。先生方との関係も良好ですから。

中野 僕は今度4年生になるので、いろんな可能性を試してみたいと思っています。トーチランに参加したことで、打楽器一本の道じゃなくてもいいのかな、と思い始めました。好きな音楽で生活していくためにたくさん武器を持っておきたい。そうした可能性を教えてくださいました。それが東邦です。

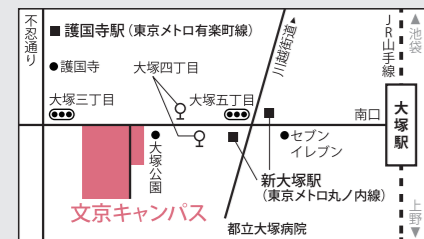
城之内 二人はこのような校風の学校で学び、たくさん可能性を見つけてPACSに進学してきました。少なくとも私のころは、世の中の音大の附属に入ったら、クラシック路線でいかなきゃならない風潮もありましたが、今はもっとボーダーレスです。例えばミュージカルが好きで歌が好きだから、学校に入って専門的な勉強を始めるという感覚です。そしてその可能性が広がるのが東邦の素敵なおとこらだと思っています。歌で入ってきたけど今はテレビ番組の制作をしている人もいますし、中川さんのように中高ではヴァイオリンだけど、大学にはミュージカルの歌で入ったという人もいます。短大や大学にはPACSやシンガーソングライター・アーティスト専攻をはじめ、あらゆる「出口」が用意されているので、東邦に入ってさらに道は拓けるといいます。可能性は無限だと教えてくれる先生方がいますから。



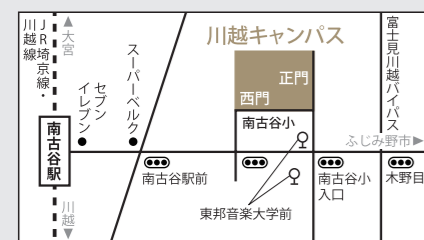
HISTORY

- 1934年 「東京高等音楽学院」(国立音楽大学の前身)院長であった三室戸敬光が、JR大塚駅前に「東京高等音楽学院大塚分教場」を開設。
- 1938年 三室戸為光が「東京高等音楽学院大塚分教場」を継承。校名を「東邦音楽学校」と改称し、全国唯一の昼夜2部制の音楽学校を立ち上げる。三室戸為光が初代校長に就任。
- 1947年 東邦中学校(男女共学)開学。
- 1948年 東邦高等学校開学。普通科および全国初の音楽科を開設。
- 1951年 東邦音楽短期大学(音楽科)開学。
- 1963年 埼玉県川越市今泉に川越キャンパスを設置。東邦第二高等学校(普通科・女子)開学
- 1965年 川越キャンパスに東邦音楽大学(音楽学部音楽学科)開学
- 1969年 東邦第二高等学校普通科を音楽科に移行。
- 1983年 三室戸東光が理事長に就任。
- 1997年 東邦中学校・東邦高等学校校舎(8号館)竣工。
- 2001年 東邦中学校・東邦高等学校・東邦第二高等学校の校名を「東邦音楽大学附属東邦中学校・東邦高等学校・東邦第二高等学校」と改称。
- 2003年 東邦音楽大学附属東邦第二高等学校(男女共学制)実施。
- 2018年 三室戸学園創立80周年記念式典を挙行。
- 2023年 三室戸学園が創立85周年を迎える。

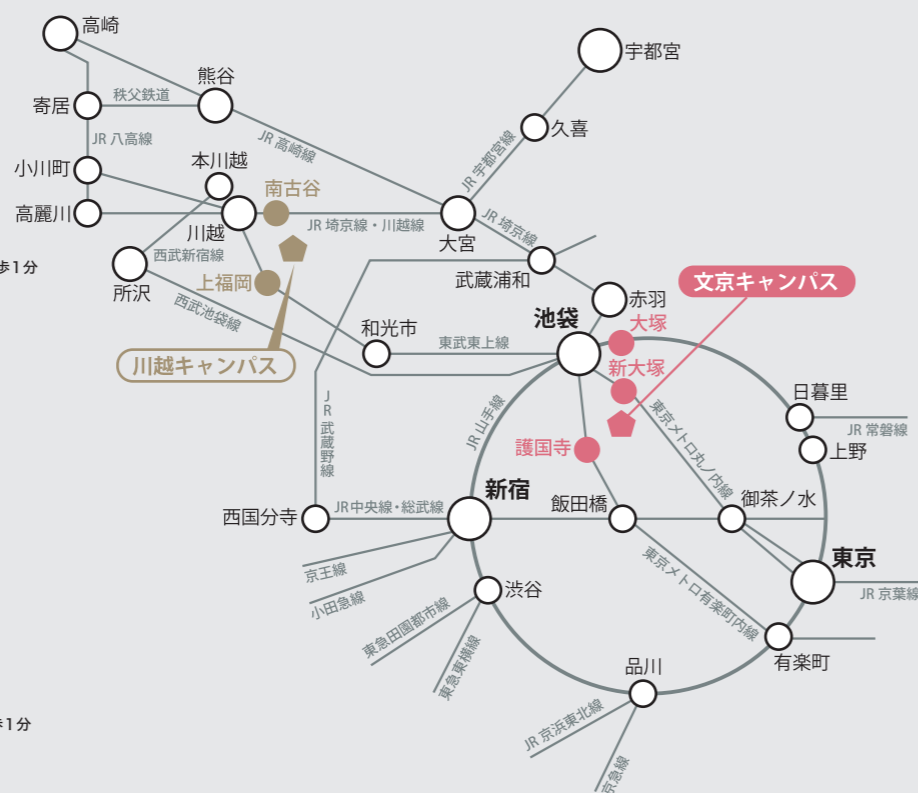
ACCESS MAP



文京キャンパス
〒112-0012 東京都文京区大塚4丁目46-9
TEL.03-3946-9667
■ 東京メトロ丸ノ内線「新大塚」駅下車、徒歩3分
■ 東京メトロ有楽町線「護国寺」駅下車、徒歩8分
■ JR「大塚」駅下車、徒歩10分または都バス「大塚4丁目」下車、徒歩1分



川越キャンパス
〒350-0015 埼玉県川越市今泉84
TEL.049-235-2157
■ JR埼京線・川越線「南古谷」駅下車
スクールバスで約3分、または徒歩約10分
■ 東武東上線「上福岡」駅 東口より
・川越キャンパス行きスクールバス乗車、約12分
・西武バス 古01「南古谷駅」行き乗車、「東邦音楽大学前」下車、徒歩1分



GREETING



学校法人 三室戸学園 理事長
三室戸 東光

中学校から高校、大学、大学院、研究所、そしてオーストリア・ウィーンキャンパスまでを擁する本学園の特徴は、附属校と大学の「高大連携接続」を柱とした音楽一貫教育にあります。感性豊かな時期に演奏基礎力を身につけ、個性を生かせるように楽譜を解釈すること。さらに、音楽の幅や奥深さを知識として吸収し、専門性を磨くことと同時に、一貫教育を通じて調和のとれた人格を形成することが重要なのです。というのも、音楽を学ぶ意義は「豊かな人間性の育み」であり、習得の過程で培われる理解力・想像力・忍耐力・コミュニケーション力はあらゆる社会生活の糧になるからです。事実、卒業生たちは不断の積み重ねに基づく優れた演奏力と安定感を有し、多様な分野で自分を表現しています。そうした理念に則し、本校はできるだけ音楽に囲まれた環境を提供することに努め、ボランティアコンサートや学内外の演奏会なども積極的にを行っています。その中で生徒個々が自立心を養い、学校で得た能力を夢ある未来に生かしてくれることを願っています。



東邦音楽大学附属 東邦中学校・東邦高等学校
校長 林 克幸

東邦高等学校は東邦音楽大学の附属校である強みを生かし、音楽に対する高い専門性をもった教育を日々実践しています。と同時に、一般科目についても将来を見通したカリキュラムを構築しています。中学・高校時代は人間的にも音楽的にも大きく伸びる時期ですので、一人ひとりの個性を生かすために、各々に応じた目標設定を教職員が共有して様々な角度から支援し、じっくりと育むように努めています。また、大学院・短期大学・中学校を併設した文京キャンパスの環境により、生徒同士が年齢を超えて仲良く過ごし、音楽的にも良い刺激がある点も魅力の一つです。さらに一貫教育ならではの中高合同合奏や、学内外に数多く設けている舞台演奏の機会もあり、生徒はモチベーションを高く持っています。将来の夢につながる音楽の土台を、ぜひ一緒に築きましょう。

■ 学校法人三室戸学園

〒112-0012 東京都文京区大塚4丁目46-9 TEL 03-3946-9666

東邦音楽大学附属 東邦中学校・東邦高等学校

[文京キャンパス] 〒112-0012 東京都文京区大塚4丁目46-9 TEL 03-3946-9668



東邦音楽大学附属 東邦中学校公式サイト
<https://www.toho-music.ac.jp/juniorhigh/>



東邦音楽大学附属 東邦高等学校公式サイト
<https://www.toho-music.ac.jp/highschool/>

